

## 勤労者の助け合い活動参加をどうながすか

### 提言

勤労者も普通に地域を支える活動を行う  
日本社会にしよう。

### 登壇者

【進行役】	澤 美杉	(公財) さわやか福祉財団
【アドバイザー】	蒲原 基道氏	日本社会事業大学専門職大学院客員教授、元厚生労働事務次官
	桑田 竜一郎氏	但陽信用金庫理事
	嵯峨 生馬氏	(認定特非) サービスグラント代表理事
	野中 久美子氏	(地独) 東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム主任研究員
	真島 康誉氏	まごのて代表
	鶴田 徳昭氏	八王子市教育委員会生涯学習政策課長

#### ■ 寄せられた声から

- 団体の共通する課題であります勤労者の助け合い参加。それぞれの分野で活躍されている実践でのお話は大変参考になりました。明日からの活動に大いに力になります。こういった形での人選と話の進め方、さわやか福祉財団さんお見事！
- 「〇〇したい」との思いを持つ人に丸投げするのではなく、行政も、社協も、助け合いに興味がある人も、実際に支援を活用する人も、互いを理解しあうことが重要であると学びました。自分も勤労者の一人ですが、勤労者の助け合い活動はできることをできるときに行うことが重要ではないかと学びました。体制づくりを進めていくうえで、課内だけでなく、社協のボランティア部局、地域支援事業に取り組む人たちと、学びや気づきを共有していきます。
- 真島さんがおっしゃっていた「地域福祉の担い手は誰でもなれる」がとても印象に残りました。

## 議事要旨 澤 美杉

当分科会では、「現役勤労者による地域包括ケアシステム推進に関する研究」の成果品である3種のリーフレットを紹介。更に「勤労者」と「学生」の事例を紹介しつつ、「勤労者が助け合い活動に参加するには」という難題に果敢に挑みました。

### 「現役勤労者による 地域包括ケアシステム推進に関する研究」

勤労者の中には地域のボランティア活動に、少し興味を持っている人が意外といて、この人達は、ちょっとしたきっかけさえあれば、ボランティア活動を開始すること、実際に、無理のない範囲で活動している勤労者がいること、勤労者への情報提供には工夫が必要であることがわかった。また、とかく勤労者や企業側のことばかり考えがちであるけれど、実はSCや活動団体側の理解が不可欠。行政は出しゃばりすぎることなく、必要に応じてSCと一緒に動くことや側面からその信用力を活かして支援することが大切。

### 但陽信用金庫（兵庫県）

ボランティア活動は、優しさや思いやりを持って地域の人と接することを求められる信用金庫にとって、職員の間人性を高める重要な教育機会。同時に、経営基盤である地域を強化している。職員によるボランティア活動を通して、地域から但陽信用金庫を必要とされることで、地域と会社の双方に利益をもたらす仕組みが構築できている。続けることに意義がある。世の中の変化を考えながら、できることを愚直に続けていく。

### まごのて（北海道）

大学のサークルという独立した任意団体として活動することで、どこからも制約されることなく、思いのまま

に活動できている。活動を通して、貴重な社会経験ができること、多世代交流や利害関係のない様々なバックグラウンドを持つ方々と交流できることが魅力で、自分自身の成長につながっている。地域福祉の担い手には誰でもなれる。

登壇者5名の話を受け、アドバイザーの蒲原基道氏は、次のようにポイントを整理しました。

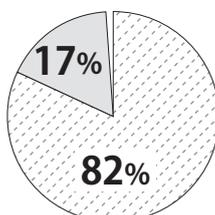
- 現役勤労者のボランティア活動参加を考えると主な登場人物は、活動団体、勤労者、そのつなぎ役としてのSC、更には勤務先（企業）。企業のルートを通じてアプローチすることで、勤労者と活動団体がうまくつながる。
- 但陽信用金庫の取り組みは素晴らしいが、従業員のボランティア活動参加には、いろんなパターンがあるので限定的に理解しないことが肝要。勤労者のボランティア活動参加のメリットは企業と本人の双方にある。
- まごのての活動を通して学生がよい経験を積むことで、就職後のボランティア活動参加に自然とつながる。この活動の広がり期待する。

その後の討議では、勤労者がボランティア活動をする際に周囲の理解を得るための工夫やプロボノは入り口として有効だったのか、企業へのアプローチ法、ボランティア活動の先入観の払拭など様々議論しました。

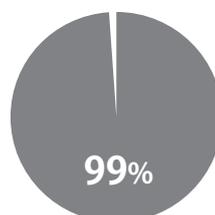
最後に蒲原基道氏が「勤労者が普通にボランティア活動に参加する社会であることが大事。『普通』を実現するためには、団体や企業、SC、行政が理解を深め、工夫して、サポーターの役割を果たす必要がある」と整理のうえ、分科会提言をまとめました。

## アンケートの結果 参加者概数：243名 回答者数：127名

回答者の所属先



助け合い活動をすすめる立場の方



その他の方

